

未来開拓基金（取組2-③）学内施設・設備等の充実）
お茶の水女子大学理学部1号館改修・機能強化事業募金第Ⅱ期
趣意書

本学は、1875（明治8）年に東京女子師範学校として開設され、2020年（令和2年）には創立145周年を迎えました。本学理学部は数少ない女子大学の理学部ながら、数学科、物理学科、化学科、生物学科、情報科学科の5学科を擁し、少人数制を生かした少人数ゼミや全員で行う実験等を通じ、社会で先導的な役割を果たす多くの高度専門職業人・科学者・教育者を養成してきました。

このような理学部の教育研究を支える建物として、1967（昭和42）年に理学部本館（現1号館）が完成し、その後も理学部2号館、理学部3号館が建設されました。中でも理学部1号館は、本学の理系教育研究の中心を担う施設であり、学部学生及び大学院学生の教育研究に利用されていますが、2008（平成20）年の耐震補強と外部改修を除き、内部は約50年以上の間、大規模な改修を行うことが出来ず、老朽化が進行しています。理学部が今後も社会が求める理工系女性リーダーを育成していくためには、ICT機器を導入したアクティブラーニングスペースの確保や学内外の共同研究を促進するためのオープンラボの設置など、新しい時代に則した高度教育研究環境の整備等機能強化が必要となっています。

かねてより国に要求していた理学部1号館改修工事が、国立大学法人施設整備補助事業として認められ、昨年度2期計画のⅠ期目工事が行われました。引き続き、2021（令和3）年度にはⅡ期目工事が行われることとなりましたが、Ⅰ期工事同様に国からの予算で実施できるのは、国の基準に合わせた内部改修のみであり、各種設備の更新や基準外の工事は行うことができません。今回の改修工事に合わせて、本学が中期目標で掲げる理工系女性リーダーの育成のための教育改革を推進するために必要な教育研究設備を整備することを希望していますが、国からの予算だけではこれらの実現は困難な状況にあります。本学の学内予算で賄える整備にも限度があります。

昨年度の理学部1号館改修Ⅰ期工事に際しましては、皆様から多大なご支援をいただき、必要な教育研究設備の整備に役立てることができました。改めてここに感謝いたしますとともに、Ⅱ期工事を始めるにあたって引き続き、皆様のご支援お力添えをお願いし、理学部校舎の機能強化事業全体の目標を達成できれば大変有難いことと考えております。つきましては在学生保護者の皆様、卒業生及びその保護者の皆様、同窓会である桜蔭会、桜化会の皆様、その他趣旨に賛同しご協力くださる皆様からのお力添えを賜りたく、ご協力くださいますよう心からお願い申し上げます。

2021年4月吉日

理学部長	小林 功佳
協力者	赤坂 里美（後援会会長）
	高崎 みどり（桜蔭会会長）
	今野 美智子（桜化会会長）